

シリーズ「高脂血症(糖質)」③

高脂血症(糖質)に対する薬物療法

国立病院機構和歌山病院

薬剤科 加藤 あい

高脂血症は血液の中のコレステロールや中性脂肪が高い状態のことをいいます。血液の中のコレステロールや中性脂肪が高いと、動脈硬化、さらに心筋梗塞や脳梗塞へと進む危険性が高くなります。高脂血症の治療の基本は食事療法や運動療法などの生活習慣の改善ですが、それでも十分な効果が得られない場合に薬を使用することになります。また、遺伝性のある家族性高コレステロール血症の場合など、病態によっては初めから薬を使用することもあります。

以下に、よく使用される薬についてまとめてみます。

○LDL(悪玉)コレステロールを低下させる薬

現在最も広く使用されている薬はリピトール®等のスタチン系と呼ばれる薬です。肝臓でのコレステロール合成を阻害する薬で、強力なLDLコレステロール低下作用があります。肝機能障害がある方や妊婦の方、その他の病態により使用できない場合には他の薬が選

択されます。スタチン系の薬には横紋筋融解症という副作用があるので、もし服用中に筋肉痛や脱力感、尿の着色などがあればすぐに主治医に伝えてください。またゼチーア®という薬は小腸でのコレステロール吸収を阻害する薬で、単独でも使用されますが、上記のスタチン系との併用でより強力なコレステロール低下作用を発揮します。

○トリグリセライド(中性脂肪)を低下させる薬

ベザトールSR®等のフィブラート系の薬は中性脂肪を低下させる効果が一番強いといわれており、中性脂肪の高い人によく用いられます。しかし、腎機能が低下している方や妊婦の方には使用できない場合があります。また、上記のスタチン系薬剤と同時に使用することで副作用の横紋筋融解症が出現する危険が高くなるといわれています。そのため、スタチン系を使用している場合はフィブラート系の薬を避け、エパデール®等のEPA(エイコサペンタエ

ン酸)製剤等を使用します。EPAは中性脂肪を低下させる効果のほかに、血小板の働きを抑える作用(血をさらさらにする作用)も持ち合わせており、脳梗塞や心筋梗塞の発症を減らすことが期待されている薬です。ただし、大きな手術をする前には服用を中止する場合があります。他の病院にかかる場合には服用していることを必ず伝えるようにしましょう。

以上のような薬をコレステロールの値などの血液検査の結果や、副作用などを確認しながら、その人に合わせて調節しています。

薬を飲み始めるとそれに頼ってしまう人がいますが、それではいけません。高脂血症の治療の基本は食事療法や運動療法なので、それを続けていく必要があります。食事療法や運動療法をしつかり続けていけば、薬を少しずつ減らしていくこともできるかもしれません。しかし、「コレステロールや中性脂肪の値が安定してきたから」といつか自己判断で薬をやめることはできません。薬を急に中断すること、すぐに数値が上がってきてしまう場合があるからです。医師の指示の通りに、しっかりと薬を飲んでいくことが大切です。